

海外事務所だより

ソウル事務所

クレアソウルにおける日韓交流の取組み

ソウル事務所所長補佐 松崎 謙二(愛媛県松山市派遣)

1 はじめに

近年、自治体が行う国際交流では、訪日観光客の誘致や特産品の販路拡大などを目的とした経済交流の取組みが注目されていますが、経済交流を実現し、成功に至るまでには、姉妹都市交流など地道な取組みにより築かれた自治体間の信頼関係が礎となっています。

日本と韓国の自治体間の姉妹都市提携は、1968年10月に山口県萩市と蔚山(ウルサン)広域市(当時は蔚山市)が姉妹都市提携を締結したことに始まり、それ以降、年々増加を続け(表1)、2011年12月末日現在で139件に上っています。

当協会が実施した「姉妹自治体の活動概況に関する調査(2009年度)」の結果では、日本と韓国の姉妹自治体間の交流分野は、「行政交流(職員・研修生・専門家の派遣・受入など)」の割合が最も高く(33.0%)、

「教育交流(学生・教員の交流など)」(21.6%)、「文化交流(文化団体の派遣・受入、文化関係イベントへの参加など)」(17.8%)と続きます(表2)。両国の自治体間交流は、行政交流に加えて青少年や住民の交流も活発であると考えられます。

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、日本では未曾有の大惨事となりましたが、韓国では、姉妹都市交流のある都市間で多くの支援が行われたり、街のあちこちで日本の復興を願う垂れ幕が張られ、募金活動が行われるなど、日韓両国の交流や絆の太さを改めて感じることができました。また、今年度の様々な日韓交流イベントでは、日本側からは震災時の支援への感謝や復興のメッセージ、韓国側からは被災地への激励のメッセージが述べられました。

そこで、今年度の日本と韓国における国際交流について、クレアソウルが実施・参加した事業を中心に紹介します。



表1 日本と韓国の自治体間の姉妹都市提携数の推移

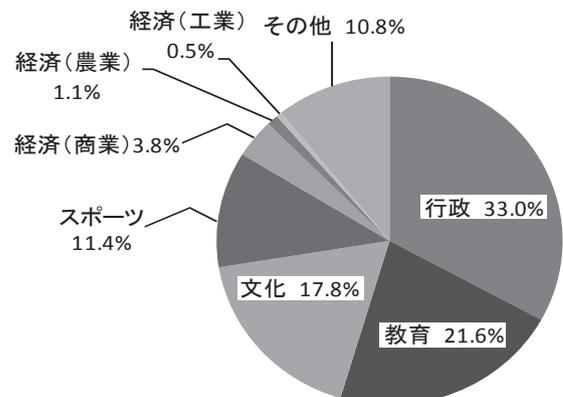


表2 日本と韓国の姉妹自治体間の交流分野別割合 (2009年度)

## 2 日韓の国際交流の取組み

### (1) Seoul Friendship Fair

～日本人学校の中学生が伝統文化を紹介～

Seoul Friendship Fairは、ソウル特別市が主催するおまつりで、世界各国の伝統文化や食品などを紹介・販売し、交流を深めるものです。今年度は2011年5月7日～8日の日程で、好天に恵まれる中、ソウル市庁前広場とその周辺で開催されました。クレアソウルはSJC（ソウルジャパンクラブ）の一員として、浴衣の試着やけん玉、ヨーヨー釣り等、伝統遊具を紹介。日本では渋い色の浴衣も好まれますが、



浴衣を着てけん玉を実演する日本人学校の中学生たち

韓国では韓服に見られるような明るい色に人気が集まり、日本の風景のポスターの前で写真を撮る人も多く、順番待ちができるほどでした。

### (2) 日韓交流スピーチ大会～スピーチ大会が繋ぐ日韓交流～

クレアソウルでは、2005年度より、JETAA大韓民国支部、在大韓民国日本国大使館と共催で日韓交流スピーチ大会を開催しています。

このスピーチ大会は、日韓両国がお互いに抱えている問題や状況、文化などについて日本人は韓国語で、韓国人は日本語でスピーチすることで、お互いの国のことを相手の立場(言語)からより深く理解できるようにという思いから始まりました。

予選には140以上もの原稿が寄せられ、予選審査を通過した17名の本選出場者が参加して、2011年11月19日に「第7回日韓交流スピーチ大会」が開催されました。開催場所となった在大韓民国日本国大使館公報文化院には、出場者のほか、応援に駆けつけた家族や友人、日韓交流に関心のある方々が多数来場し会場を盛り上げました。

スピーチ内容は、交流を通じて感じた日韓の文化・風習の違いや、勉強を始めたきっかけ、学習時のエピソードなど多岐にわたりました。外国語を勉強する際には、ネイティブスピーカーとの交流が一番の近道と言われますが、ルームメイトや恋人、同

僚といった身近な人との交流を通じて言葉だけでなく、文化や考え方などの違いに気づいていった過程などがそれぞれのエピソードとともに発表されました。スピーチからは、「伝えたい・知りたい」という思いが心のこもった交流を生み出している様子や、言葉をコミュニケーションの手段の一つとして活用し、日韓双方に対するより深い理解や交流を目指している様子がうかがえ、聴衆の皆さんもスピーチを聞きながら頷いたり、時には涙ぐんだり、会場が笑いに包まれたりと大変盛り上がりしました。

大会終了後には、出場者と審査員、来場者を交えた交流会が開催され、スピーチでは話しきれなかったエピソードや、感想などを伝え合っていたほか、出場者同士が、連絡先を交換するなど、新たな交流の場にもなっています。

日韓両国の人々が、和気藹々と友好親善を深め、交流と相互理解を進める場として、今後も多くの方に参加していただきたいと考えています。

### (3) 日韓学生の交流事業～学生同士の心と心の繋がり～

姉妹都市提携を締結している日本と韓国の自治体で、中学生等を提携先自治体に派遣して交流する事業にクレアソウルでも活動支援を行っています。

松山市では、友好都市である京畿道・平澤(ピョンテク)市との間で中学生を相互に派遣しており、松山市の中学生は2011年7月24日～29日に平澤市主催の韓・中・日青少年交流キャンプに参加し、ホームステイや、ユンノリ(すごろくに似た遊び)などの伝統遊び体験、チヂミなどの韓国料理体験などで交流しました。翌週の8月2日～7日には平澤市の中学生が松山市を訪問し、ホームステイや、道後温泉での浴衣着付け体験、海水浴などで交流し、両市の中学生が約2週間一緒に過ごす貴重な経験となりました。



受賞者の皆さんと審査員の記念写真、発表時の衣装にも凝っています



チヂミ作り体験の様子

宮崎市では、姉妹都市である忠清北道・報恩（ポウン）郡との間で小中学生の交流事業を実施しており、今年度は宮崎市の中学生在が2011年8月18日～20日の日程で報恩郡を訪問し、俗離山中学校で報恩郡の中学生と一緒に剣道やサッカー、韓国式の餅つき体験などで交流を深めました。中学生たちは身振り手振りで一生懸命コミュニケーションを図っていて、「たとえ言葉は通じなくても気持ちちは通じる」ことに喜びを感じていました。

### 3 東日本大震災からの復興支援の取組み

#### (1) 日韓交流おまつり2011 in Seoul

～がんばれ日本、ありがとう韓国～

2011年9月25日、ソウル市庁前広場にて「日韓交流おまつり2011 in Seoul」が開催されました。好天にも恵まれ、約4万5,000人もの観客が来場し大いに賑わい大成功となりました。このイベントは、2005年に日韓国交正常化40周年を記念した「日韓友情の年」の主要事業として始められ、毎年ソウルで開催され今年度で7回目です。

テーマを「がんばろう日本！ありがとう韓国！」とし、東北の伝統芸能や韓国の農楽、踊りが舞台を彩り、東日本大震災で被災した日本を元気づけるエールを送るとともに、年々太くなっていく日本と韓国の「絆」を確かめる場となりました。

数多くのブースが出展しましたが、特に2011年3月11日に発生した東日本大震災の「報道写真展」や、「がんばれ日本！韓国児童作品展示会」では、多くの方々が写真や作品に見入っていました。

クレアソウルでは、「おまつり」の企画・運営、各県ブース等の運営に計8名が参加し、日本と地域のPRに努めました。今回の「おまつり」は、会場が賑わうとともに多くの韓国メディアにも取り上げられ、「日本・東北の元気」を発信できました。



がんばれ日本！韓国児童作品展示会

#### (2) 日本文化講演会・日本酒試飲会

～日本酒で元気な日本と被災地の復興情報を発信～

クレアソウルでは、東日本大震災の復興メッセ

ージを発信し、「日本の元気」を韓国でアピールするため、「日本文化講演会・日本酒試飲会」を2011年10月25日(火)に開催しました。会場となった韓国外国語大学には、日本に対する関心が特に高い日本研究者及び日本語教育者、約200名が来場し大いに賑わい、好評を博しました。今後、ご参加頂いた先生方の「口コミ」による日本酒の需要拡大、日本のイメージダウンの払しょく、日本への観光客数の回復への良い影響を期待しています。



被災地の地酒を堪能する参加者

#### 【開催概要】

1. 対象：日本研究者及び日本語教育者 約200名
2. 主催：自治体国際化協会ソウル事務所・韓国外国語大学日本学部
3. 共催：北東北3県・北海道ソウル事務所、宮城県ソウル事務所、山形県ソウル事務所、新潟県ソウル事務所、静岡県ソウル事務所
4. 内容：
  - ・日本酒の魅力に関する講演  
(講師：日本酒ソムリエ・利酒師 イ・ヒジョン先生)
  - ・被災地の地酒の試飲会と鏡開き  
(駐韓国日本国大使館公報文化院長 道上 尚史氏による 柘での乾杯)
  - ・映像スクリーンや写真パネルによる被災地情報の発信
  - ・日本の伝統文化「生け花」紹介  
(講師：池坊ソウル支部長 朴永順 (パク・ヨンスン) 先生)

### 4 おわりに

このように、日本と韓国との国際交流の取組みは、姉妹都市交流や学生の交流、大規模な行事での伝統文化交流など多岐にわたります。

クレアソウルでも、これまで実施してきた取組みを土台としながら、今年度実施した「日本文化講演会・日本酒試飲会」のように、その時々々の社会情勢に対応した事業を実施し、経済交流を含む日韓交流の一層の発展に努めてまいります。